



Sun A. Kaken

**第110期(2019年3月期)
決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2019年6月3日

目次

1. 第110期(2019年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第111期(2020年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費
- 今後の設備投資の方向性

4. 参考情報

- 商品紹介
- 活動紹介
- 基本情報

目 次

1. 第110期(2019年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第110期決算概要：連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

科 目	2017年3月期末 （第108期末）	2018年3月期末 （第109期末）	2019年3月期末 （第110期末）	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	19,800	20,522	20,028	▲493	▲2.4%
現金預金	4,387	5,619	5,380	▲238	▲4.2%
売上債権	11,738	11,575	10,974	▲601	▲5.2%
棚卸資産	3,179	3,231	3,338	106	3.3%
その他	495	95	334	239	251.9%
固定資産	15,130	15,133	13,757	▲1,376	▲9.1%
有形固定資産	8,688	8,486	7,528	▲957	▲11.3%
無形固定資産	12	43	32	▲11	▲26.6%
投資その他の資産	6,428	6,603	6,196	▲407	▲6.2%
資産合計	34,930	35,656	33,786	▲1,869	▲5.2%

※第108期末については繰延税金資産と繰延税金負債の相殺前の金額を記載しております。

※百万円未満切捨て

第110期決算概要：連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

科 目	2017年3月期末 （第108期末）	2018年3月期末 （第109期末）	2019年3月期末 （第110期末）	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,465	12,724	12,060	▲664	▲5.2%
仕入債務	6,738	6,875	6,898	23	0.3%
短期借入金	3,226	3,226	3,280	53	1.7%
その他	2,499	2,623	1,881	▲741	▲28.3%
固定負債	3,662	3,072	2,345	▲727	▲23.7%
長期借入金	1,909	1,305	715	▲590	▲45.2%
その他	1,752	1,767	1,629	▲137	▲7.8%
負債合計	16,127	15,797	14,405	▲1,392	▲8.8%
純資産	18,803	19,858	19,380	▲477	▲2.4%
負債及び純資産合計	34,930	35,656	33,786	▲1,869	▲5.2%

※第108期末については繰延税金資産と繰延税金負債の相殺前の金額を記載しております。

※百万円未満切捨て

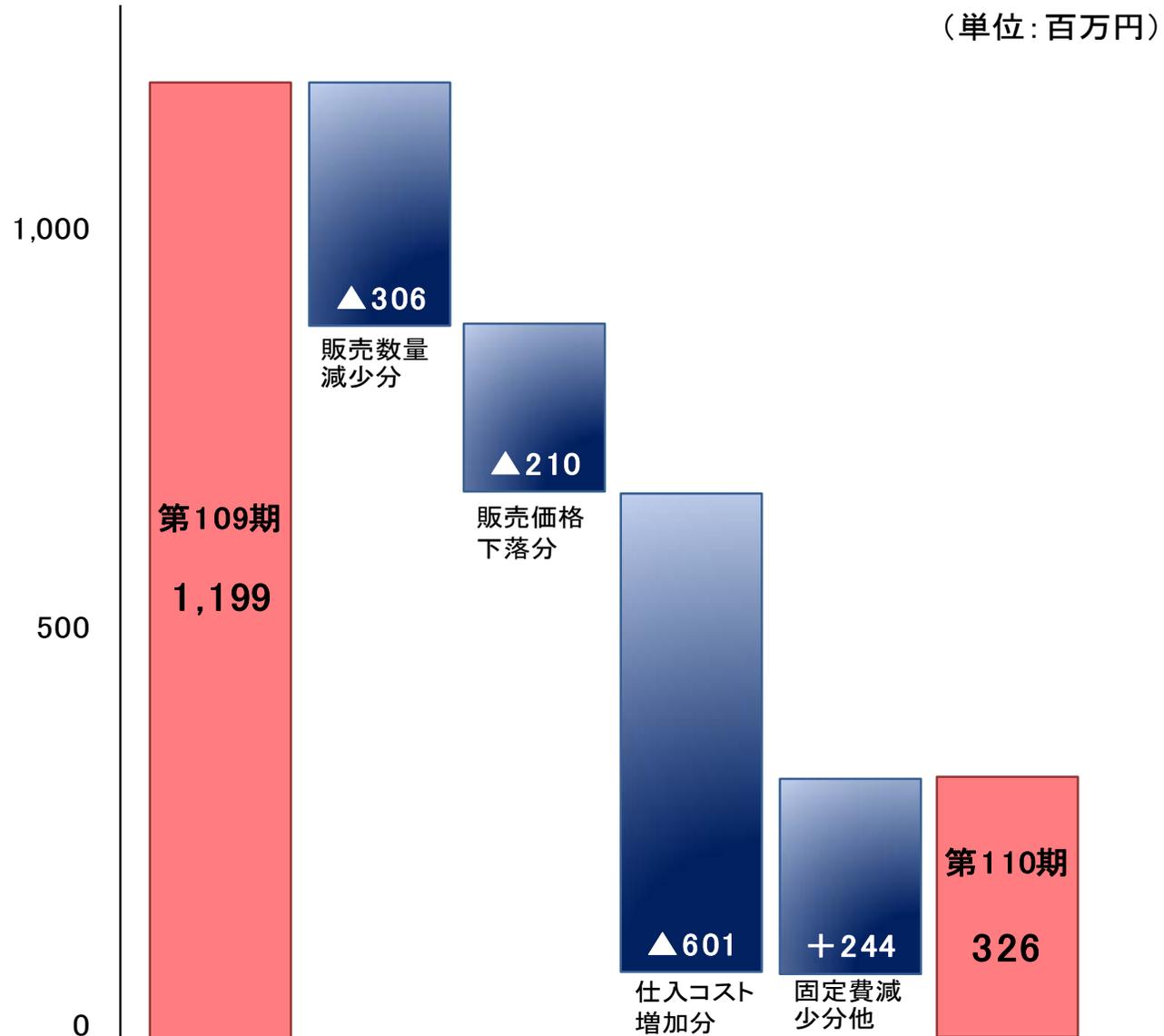
第110期決算概要：連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2017年3月期 (第108期)	2018年3月期 (第109期)	2019年3月期 (第110期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	31,702	32,753	31,195	▲1,558	▲4.8%
売上原価	26,998	28,455	27,752	▲703	▲2.5%
売上総利益	4,703	4,298	3,443	▲854	▲19.9%
販売費及び一般管理費	3,309	3,098	3,117	18	0.6%
営業利益	1,394	1,199	326	▲873	▲72.8%
営業外収益	201	262	518	255	97.0%
営業外費用	134	328	256	▲71	▲21.7%
経常利益	1,460	1,134	587	▲547	▲48.2%
特別利益	—	205	285	80	39.3%
特別損失	8	—	506	506	—
税金等調整前当期純利益	1,451	1,339	366	▲973	▲72.6%
税金費用他	459	452	180	▲271	▲60.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	992	887	185	▲701	▲79.1%

※百万円未満切捨て

第110期決算概要：営業利益の要因分解



当期の営業利益の増減要因とその影響額は、販売面においては販売数量の減少により 3億6百万円、単価の高い製品の売上比率低下による平均販売価格の下落により 2億10百万円でありました。

費用面においては、原材料価格の上昇や自社製品から仕入商品(関連会社製品)への切替に伴う仕入コスト増加により 6億1百万円、労務費その他の固定費削減により +2億44百万円でありました。

その結果、前期比 8億73百万円の減益となりました。

目 次

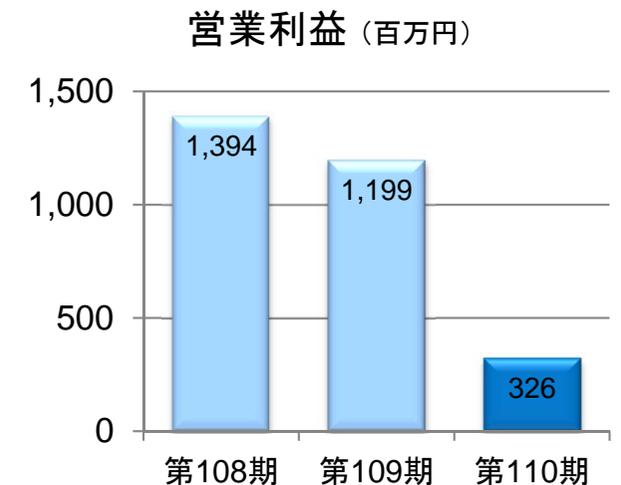
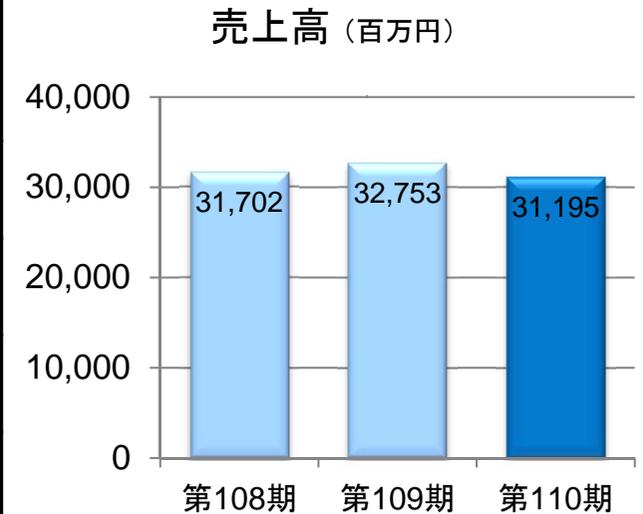
2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位:百万円)

科目/ セグメント	2017年3月期 (第108期)	2018年3月期 (第109期)	2019年3月期 (第110期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	31,702	32,753	31,195	▲1,558	▲4.8%
軽包装材料	13,854	13,114	12,632	▲481	▲3.7%
産業資材	7,194	7,269	7,045	▲223	▲3.1%
機能性材料	10,096	11,690	10,873	▲816	▲7.0%
その他	556	678	643	▲35	▲5.2%
営業利益	1,394	1,199	326	▲873	▲72.8%
軽包装材料	825	598	384	▲214	▲35.8%
産業資材	▲417	▲789	▲827	▲37	—
機能性材料	941	1,306	767	▲538	▲41.2%
その他	45	83	1	▲82	▲98.7%



※百万円未満切捨て

各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (軽包装材料)

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品加工業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (軽包装材料)

食品関連

売上高
6,110百万円



「レンジD.o!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- 独自の食品包材で収益確保
- 単身世帯増加により市場の拡大が期待

医薬品・医療器具関連

売上高
2,590百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬包材の需要拡大
- 高齢化により医療分野は成長期待

洗剤・トイレタリー関連

売上高
844百万円



大型製袋機導入により本格生産開始。今後は独自製品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 詰替え用パウチの普及が進み、伸びは一服

収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材の拡販に期待

精密機器関連その他

売上高
3,087百万円



「エアロテクト」をはじめとするエア緩衝材がこの分野の代表商品。

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エア関連製品は競合少ない

収益性・成長性

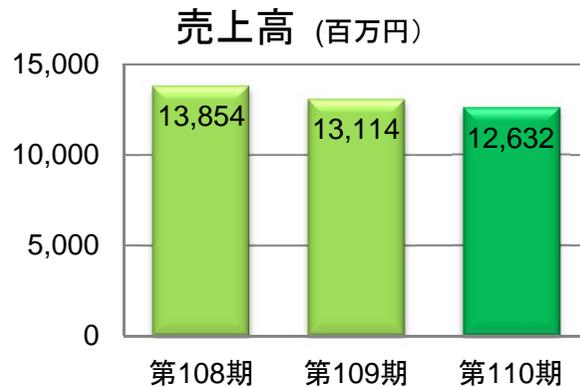
- 「エアロテクト」は顧客開拓が進むも、主力ユーザーの使用量削減の影響大

※当期より製品の一部を「精密機器関連その他」より「医薬品・医療器具関連」へ振替えました。(前期:342百万円、当期:390百万円)

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高：12,632 百万円（前期比 3.7% 減）
- 営業利益：384 百万円（前期比 35.8% 減）



- 食品用包材は、電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」が堅調であったが、清涼飲料用パウチその他の包材の受注が減少し、減収。
- 医薬・医療用包材は、高防湿PTPシート用フィルム「テクニフィルム」が伸びるも、他の商材が伸び悩み、前期並み。
- 洗剤・トイレタリー用包材は、化粧品用包材及び液体洗剤等の詰替え用パウチがともに回復し、増収。
- 精密機器その他の包材は、エア緩衝材「エアロテクト」の受注減少を他の包材で補えず、減収。
- 収益性の高い製品の減収と原材料コスト上昇により減益。



各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (産業資材)

産業資材セグメント

粘着テープ、ラベル等基材の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (産業資材)

ラミネート紙

売上高
1,694百万円



主に粘着テープ用基材(紙ベース)をテープメーカーに販売。

市場規模 (推定)

- 重包装袋: 約900百万m²/年
- テープ用: 約420百万m²/年

収益性・成長性

- 市場は飽和状態
- クラフトテープの国内生産量は横ばい

ラミネート布・ 布粘着テープ

売上高
2,012百万円



主に粘着テープ用基材(布・樹脂クロスベース)をテープメーカーに販売。

市場規模 (推定)

- 約200百万m²/年

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定

剥離紙

売上高
3,338百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模 (推定)

- 約2,700百万m²/年

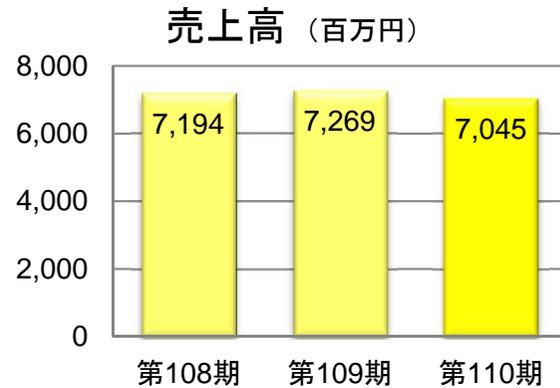
収益性・成長性

- 一般用途は競争激化
- FPC用工程紙、炭素繊維プリプレグ用工程紙の開発・拡販に注力

各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (産業資材)

産業資材

- 売上高： 7,045 百万円 (前期比 3.1% 減)
- 営業利益： ▲827 百万円 (前期実績 ▲789百万円)

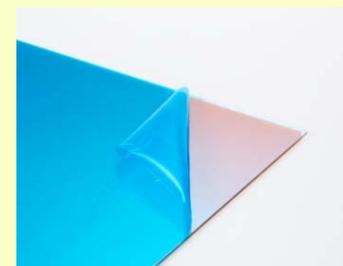


- 粘着テープ基材については、顧客である国内テープメーカー間の競争が激化し、当社の受注機会が減少。
- 上記の他、生産体制見直しの過程で工場間の移管業務が長引き、生産活動に一部停滞が生じたこともあり減収。
- 剥離紙については、電子部品固定用両面テープ、医療用品向けの受注が伸長するも、スマートフォン市場の減速に伴いFPC(フレキシブルプリント基板)用工程紙の受注が減少し、減収。
- 掛川工場WESTの償却負担が軽減するも、原材料コスト上昇により、営業損失拡大。

各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (機能性材料)

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム(各種表面保護フィルム等)の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



長鼎電子材料
(蘇州)有限公司



各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (機能性材料)

サニテクト

売上高
2,262百万円



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模 (推定)

- 約300百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 光学用途はNSタイプに成長期待

PAC

売上高
1,791百万円



2層押出しによる成膜化によって生産され、低コスト性に優れる。

市場規模 (推定)

- 約900百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

- 偏光板用は一定の需要が見込めるも、品質要求は高度化
- 強粘着タイプの拡販が課題

SAT・ 粘着加工品

売上高
6,818百万円



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模 (推定)

- 約450百万m²/年
(光学用途)

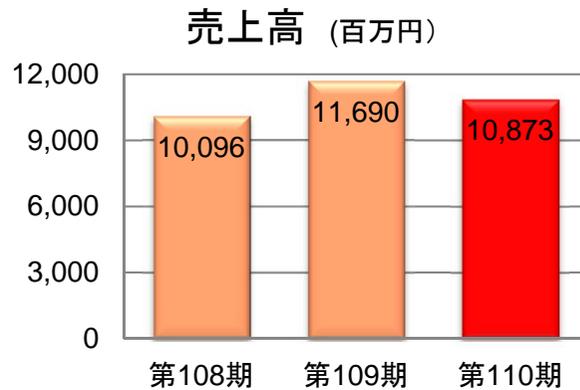
収益性・成長性

- 4K・8K対応に向け、長鼎電子材料を含むグループ全体の品質レベル向上が課題
- スマートフォン関連は受注量の変動大

各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (機能性材料)

機能性材料

- 売上高 : 10,873 百万円 (前期比 7.0% 減)
- 営業利益 : 767 百万円 (前期比 41.2% 減)



- 「サニテクト」については、PET基材の「NSタイプ」の受注が伸長したが、一般用途が伸び悩み、減収。
- 「PAC」については、スマートフォン関連の受注が減少したが、偏光板用途及び一般用途で受注が回復し、増収。
- 「SAT」については、液晶テレビ関連の受注が増加したが、スマートフォンのモデルチェンジ等に伴う一部案件の終息や、その他の光学用途でも受注が減少し、減収。
- 主として「SAT」に関わる利益率の高い開発案件の売上減少と原材料コスト上昇により減益。

目 次

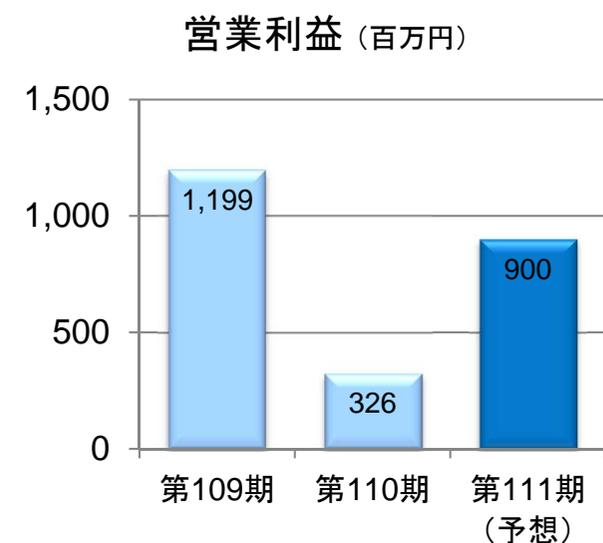
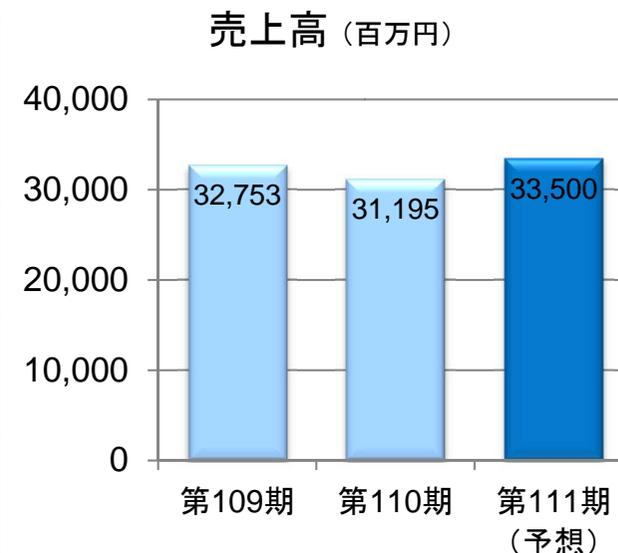
3. 第111期(2020年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別の業績予想
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費
- 今後の設備投資の方向性

第111期業績予想と今後の施策：翌期業績予想

(単位：百万円)

科目／セグメント	2018年3月期 (第109期)	2019年3月期 (第110期)	2020年3月期 (第111期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	32,753	31,195	33,500	2,304	7.4%
軽包装材料	13,114	12,632	12,800	167	1.3%
産業資材	7,269	7,045	7,800	754	10.7%
機能性材料	11,690	10,873	12,200	1,326	12.2%
その他	678	643	700	56	8.8%
営業利益	1,199	326	900	573	175.9%
経常利益	1,134	587	1,030	442	75.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	887	185	721	535	288.3%



※百万円未満切捨て

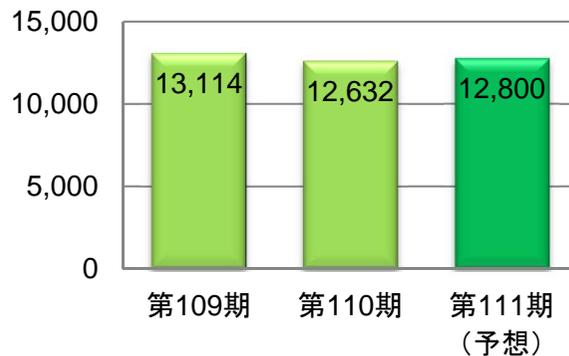
第111期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

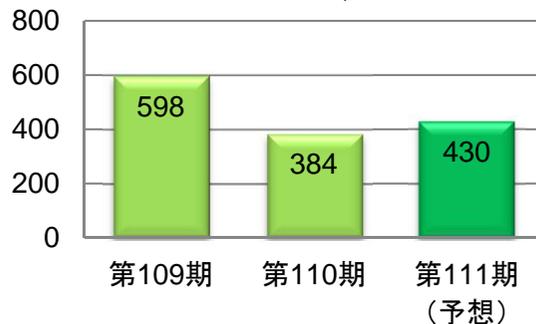
【第111期業績予想】

- 売上高：12,800 百万円（当期比 1.3% 増）
- 営業利益：430 百万円（当期比 11.8% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「レンジDo！」については生産体制を強化するとともに、調理器具としての利用も広げ、新タイプの開発・供給を継続することにより、増収を見込む。
- エアー緩衝材「エアロテクト」は減収が見込まれるが、食品用包材、医薬・医療用包材、洗剤・トイレタリー用包材の増収によって補い、全体では売上微増を見込む。
- 原材料コスト低減と収益性の高い独自製品の拡販推進により、収益改善の見通し。

第111期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（産業資材）

産業資材

【第111期業績予想】

- 売上高： 7,800 百万円（当期比 10.7% 増）
- 営業利益：▲460 百万円（当期実績 ▲827百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 粘着テープ基材については、国内需要が伸び悩むも、過去の減収分の受注回復を目指し、増収を見込む。
- 剥離紙については、メディカル関連に注力。増収を狙う。
- FPC用工程紙は、当期の落ち込みから回復傾向にあり、工程見直しによって生産能力を引き上げ、拡販を図る。
- 炭素繊維プリプレグ用工程紙は量産開始。拡販に注力。
- 掛川工場WESTの償却進行と減損による償却費減少に加え、増収と原材料コスト低減により損失縮小の見通し。

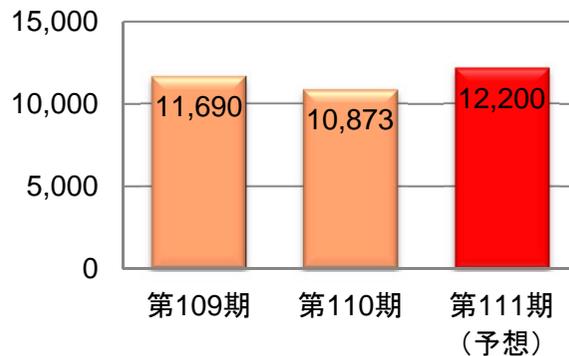
第111期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（機能性材料）

機能性材料

【第111期業績予想】

- 売上高：12,200 百万円（当期比 12.2% 増）
- 営業利益：920 百万円（当期比 19.8% 増）

売上高（百万円）



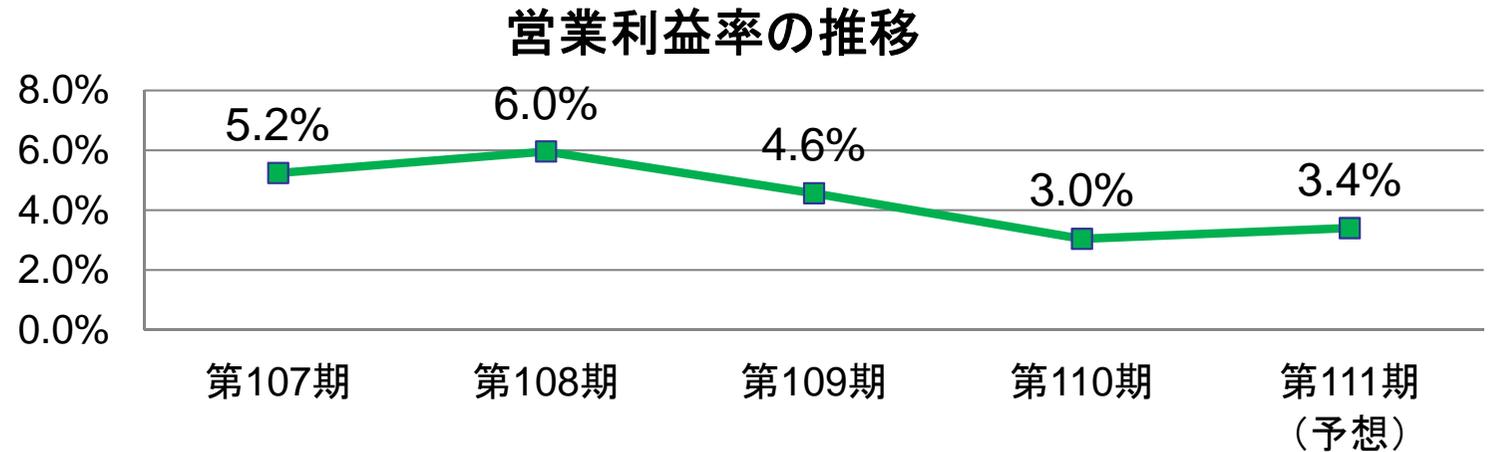
営業利益（百万円）



- 長鼎電子材料の品質向上により、既存顧客からの受注増加が見込まれ、液晶テレビ用表面保護フィルムは増収の見通し。
- スマートフォン用の表面保護フィルムについては、新規案件が始動しており、受注回復を狙う。中国、韓国向けの輸出にも注力。
- 大幅増収と原材料コスト低減を見込むも、長鼎電子材料の製品の仕入販売取引増加によって利益率の伸びは小幅。ただし、金額的には前期比大幅増益の見通し。

第111期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（軽包装材料）

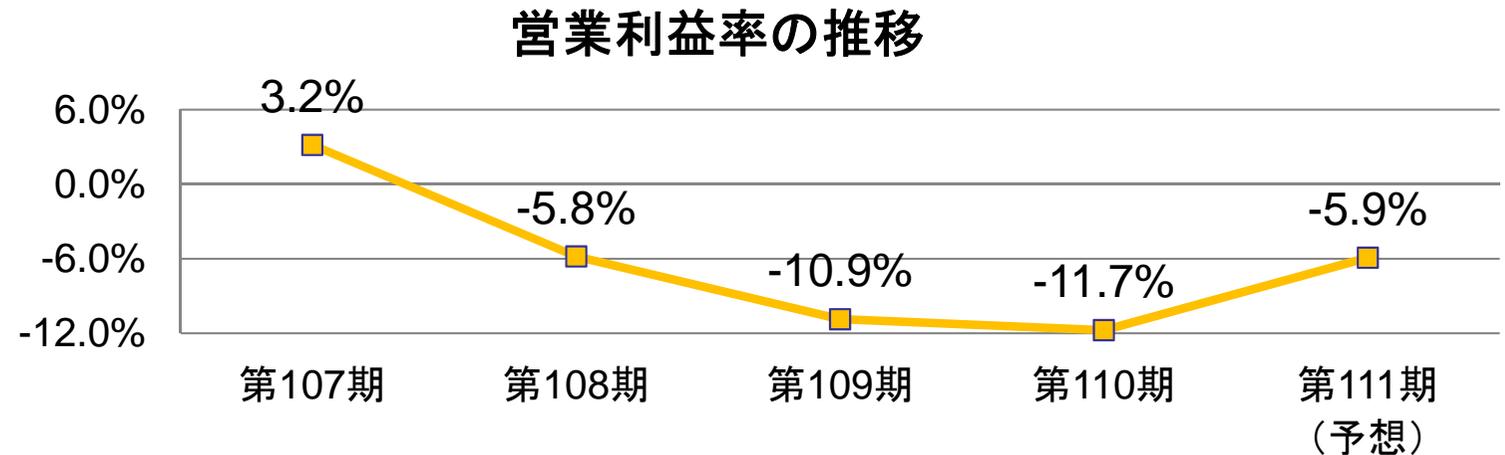
軽包装材料



- 市場ニーズと環境の変化に対応し、安定した収益を上げうる体質づくりを進める
- 電子レンジ対応食品包材「レンジD。！」の生産体制を強化するとともに、継続的に新製品を供給し、当分野における当社製品の優位性を維持する。
- 当社グループが強みをもつエア緩衝材、耐内容物包材、イージーカットフィルム等についても用途開発と製品品目の拡充を行い、新規ユーザーの獲得に努める。
- バリアコート紙や生分解性プラスチックを主原料とする包材の開発を推進し、環境にやさしい製品づくりにも積極的に取り組む。

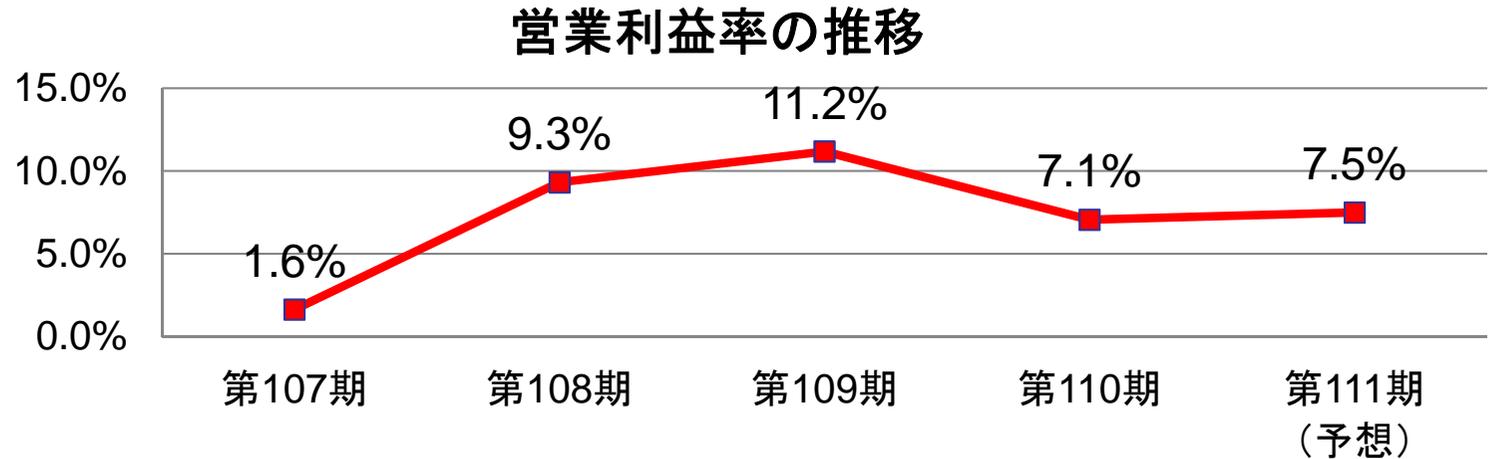
第111期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（産業資材）

産業資材



- 高収益分野への展開と生産体制の再構築によって、収益構造の転換を図る
- 掛川工場WESTへの移管が進み、同工場を中核とする生産体制を早期に確立するとともに、品質・納期面で顧客満足の上昇を追求し、取引拡大を推進する。
- 高収益が見込まれるメディカル、IT関連、炭素繊維分野において、顧客の要求品質への合わせ込み、技術の研鑽、製品開発を加速し、収益構造の転換を図る。
- 今後市場の拡大が期待される炭素繊維プリプレグ用工程紙の採用実績を着実に積み上げ、成長分野における足掛かりを築く。

第111期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（機能性材料）



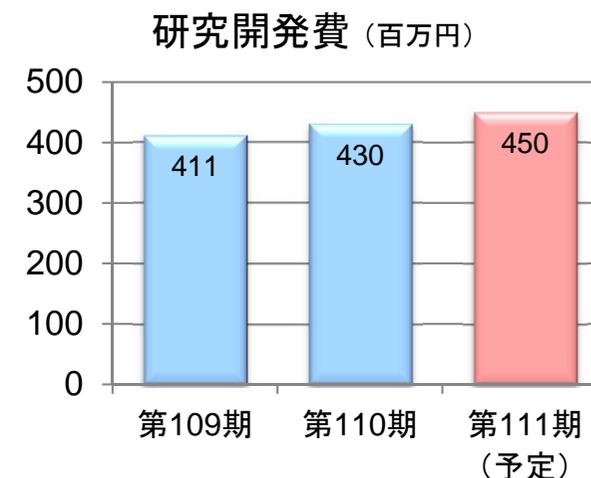
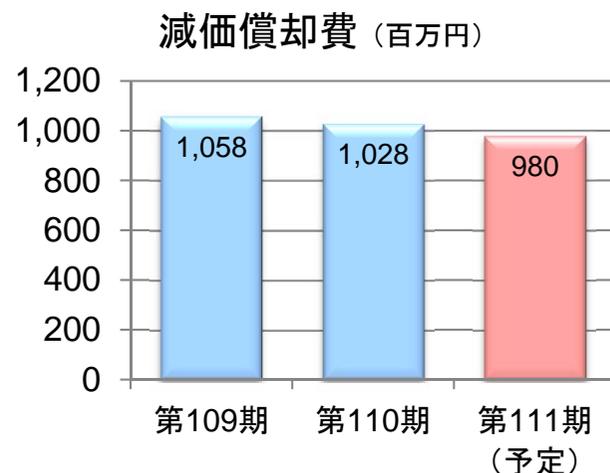
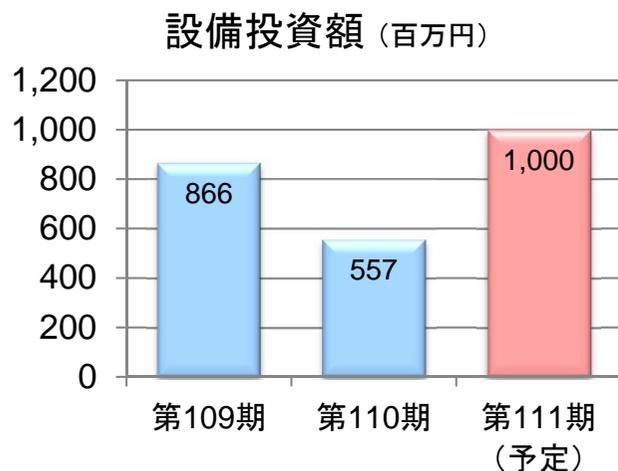
- 技術・品質・顧客対応の強化によって、安定的に高収益を維持する
- 長鼎電子材料に対する技術指導を強化し、中国ローカルユーザー向けスマートフォン用保護フィルムの生産をサポート。当社グループ製品のシェア拡大を狙う。
- 顧客密着型の開発態勢をより強化して、光学用途のニッチな分野においても製品開発段階から顧客との協業関係を構築し、将来の受注機会を確保する。
- 有機ELや新たなFPD関連の新規開発案件を数多く手掛けることで、光学用表面保護フィルムの知見・技術を幅広く蓄積し、顧客の信頼を高める。

第111期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位：百万円)

科目	2018年3月期 (第109期)	2019年3月期 (第110期)	2020年3月期 (第111期) (予定)	備考
設備投資額	866	557	1,000	製袋機、スリッター増設 欠点検知機、検査機、制御機器等更新
減価償却費	1,058	1,028	980	掛川工場WESTは償却の進行と減損により減少、他は増加または前期並み
研究開発費	411	430	450	既存分野の開発を加速し、新規分野の開発にも注力

設備投資額は無形固定資産を含まず 百万円未満切捨て



第111期業績予想と今後の施策：今後の設備投資の方向性

セグメント	設備に関する課題	投資に関する中長期の方向性
<p style="text-align: center; color: white; font-weight: bold;">軽包装材料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主要設備が長期間未更新 ■ 商品構成の変化による設備需要 ■ 製袋機生産能力不足 ■ 品質要求の高まりによる検知器の追加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主要設備の改造または更新 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 新規材料への適合、生産効率改善、品質向上 ■ 生産体制の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 設備の移設、生産集約、作業環境改善
<p style="text-align: center; color: black; font-weight: bold;">産業資材</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一部残る旧式設備での生産 ■ 掛川工場WESTフル稼働化 ■ 品質要求の高まりによる検知器の追加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産体制の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 設備の移設、改造及び統廃合 ▪ 製品毎の最適な生産工場の割当て ▪ 品質向上、製造コスト削減
<p style="text-align: center; color: white; font-weight: bold;">機能性材料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 顧客ニーズが短期的に変化 ■ SATの受注変動への対応 ■ 品質要求の高まりによる検知器、分析装置の追加 ■ クリーン化装置の増強 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 精密塗工設備の能力増強 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 将来の顧客ニーズの変化に対応 ▪ 機能・品質重視 or コスト重視 ▪ 国内 or 海外

目 次

4. 参考情報

- 商品紹介
- 活動紹介
- 基本情報

参考情報: 商品紹介

■ テクニフィルム(高防湿PTP包装用フィルム)

◆ 経緯

米国・テクニプレックス社から「テクニフィルム」のライセンスを取得し、当社が国内唯一のメーカーとして製造販売を開始。フッ素樹脂(PCTFE)フィルムの大手メーカー及び製薬会社ルートに強みをもつ商社との業務提携により、取扱高は年々増加。

◆ 特長

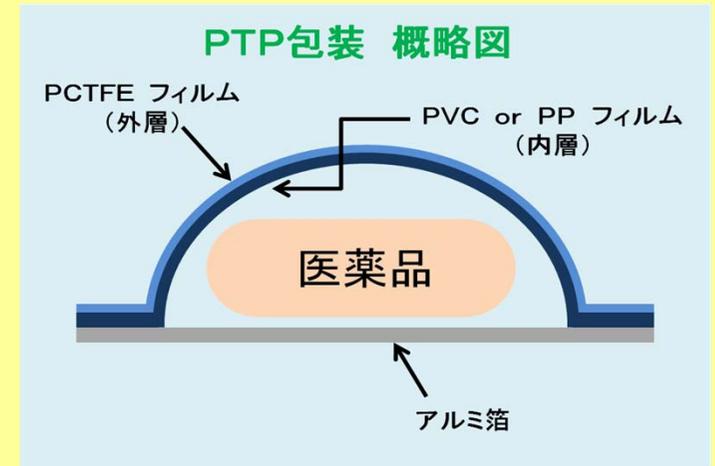
防湿性、透明性に優れる。
単体で長期保存が可能となり、アルミ包材による二重包装を省略化できる。

◆ 用途

医薬品用PTP包装

◆ 今後

ジェネリック医薬品メーカーへの拡販に注力



参考情報: 活動紹介

■ 異種の分野への試み

従来の枠にとらわれない新たな技術開発に挑戦

■ 当社が有するコア・テクノロジー

- ラミネート技術
- コーティング技術
- フィルム多層押し出し技術

上記のいずれにも属さない新たな加工技術に挑戦

- 従来より製造・加工の対象として取り扱ってきたフィルムやシート状の素材以外について、新技術に基づき製造・加工の対象とすることの可能性を検討し、新たな素材をベースとする製品開発に取り組む。

R&Dセンター



参考情報: 基本情報

商 号
 証 券 コ ー ド
 設 立 者
 代 表 者
 事 業 所

株式会社 サンエー化研
 4234 (JASDAQ スタANDARD)
 1942年9月 (昭和17年9月)
 代表取締役社長 山本 明広
 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4
 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋
 【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)
 生 産 拠 点 : 静岡、袋井、掛川(2カ所)、奈良
 野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)
 【海外】中国蘇州 (持分法適用会社 長鼎電子材料)
 研究開発拠点 : 掛川

資 本 金
 事 業 内 容
 連 結 従 業 員 数
 決 算 期

21億76百万円
 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
 672名 (2019年3月31日現在)
 3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(6月3日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp